

児童福祉事業7件

あすの社会を担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため、17年度も例年並みの7事業を助成・援助しました。

第50回山口県アイリンピック大会 山口県児童福祉連絡会議など7団体が主催、当事業団など8団体が後援・助成し、5月20日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開かれた。

第10回きらびかキャンプ 2007年度までの32年間、本事業団がYMCAに助成して心身障害児を対象に実施してきた「のびのびキャンプ」を衣替えし、20年度から発達障害児対象の新キャンプとしてスタートした。会員以外でも参加できるようにすることを条件に、今年も助成した。

平成29年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー 筑豊京築地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に、職場体験などを通じて卒業後の社会人としての自覚を促すために実施。7月17日に第1回研修会を行い、夏休み期間中に職場体験が予定されている2月4日には事後研修が予定されていた。

助金や会員の会費、寄付金で運営しているが、資金不足のため厳しい状態が続いており、今期も「母の日・父の日募金」を財源に助成。両施設の備品整備に充てた。

児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント 恒例の本団主催事業。歳末助け合い募金

☆山口県アイリンピック大会☆ 1600人が競技楽しむ



知的障害を持つ人や児童養護施設で暮らす子どもらが運動を通して交流する第51回山口県アイリンピック（県など主催、毎日新聞西部社会事業団など後援）が5月19日、山口市の維新百年記念公園で開かれ、約1600人が、レクリエーションや競技で汗を流した。施設対抗リレーでは入所者だけでなく職員も加わり、熱戦を繰り広げた。また、パン食い競争には550人が参加し、一番の盛り上がりを見せ、パンを悪戦苦闘しながら取る姿に、観客から大きな声援が送られた。写真。

◆障害者福祉事業◆

助成・援助の事業件数としては最も多く、今期はすべてが継続事業で、計17件。うち名義後援のみは4件だった。

「声の点字毎日」発行▽第40回毎日サマースクール▽北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク▽第38回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第28回北九州市障害者水泳大会▽第42回「わたぼうし音楽祭」▽第52回九州地区豊学校体育・文化連盟大分大会▽第86回全国盲学校弁論大会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽第37回出発を励ます集い▽第36回北九州市障害者ボウリング大会▽北九州OPEN（国際車いすテニストーナメント2018北九州）【名義後援事業】第15回オンキョー点字作文コンクール▽第35回北九州精神障害者家族会連合会総会▽第55回北九州市障害者スポーツ大会▽第36回肢体不自由児者の美術展

◆災害被災者救援事業◆

7月に発生した九州北部豪雨災害は、福岡県の朝倉市、東峰村や大分県日田市などで死傷者が出て、家屋、道路などに大きな被害が出た。多くの人々が募金を寄せ、9月、11月、18年3月に合わせて1711万7225円を各被災自治体や団体に寄託した。東京、大阪と合わせた贈呈額は約4600万円になった。

熊本地震救援金は、3月に300万円を熊本県に寄託、東京、大阪と合わせた贈呈額は1億7030万円になった。西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分、贈呈した。

【東日本大震災被災者救援金】日本赤十字社へ50万円【毎日希望奨学金】大阪社会事業団へ200万円【熊本地震救援金】熊本県へ300万円【九州豪雨救援金】朝倉市へ1211万7225円▽東峰村へ300万円▽添田町へ50万円▽大分県日田市へ100万円▽福岡県小石原焼陶器協同組合へ50万円

◆福祉団体助成事業◆

今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。助成団体（事業）は次の通り。

あしなが育英会▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」▽「福岡盲ろう者の会」▽ホームレス支援のNPO法人抱樸▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会

17年度決算を承認

役員会 岩松理事長を再任

毎日新聞西部社会事業団は5月29日、北九州市小倉北区のホテルで2018年度の定時評議員会（総員数6）を開き、任期満了となった理事（同）・監事を選任、17年度の事業報告案や決算案を審議、承認した。また、第1回臨時理事会もあり、理事長には引き続き岩松城・毎日新聞西部本社代表を選んだ。

定時評議員会には、評議員5人と岩松理事長らが出席。任期満了となった理事には、新たに西部ガス北九州地区支配人の山口幸之助氏が選任され、残る5人と監事はいづれも重任となった。さらに、17年度の各種募金の状況や実施した助成・援助などを盛り込んだ事業報告案や決算案なども承認し、17年度第2回通常理事会を開催。18年度の予算案や事業計画を審議した。事業予算は17年度をやや上回る約5800万円規模となり、各種事業については例年並みの内容で継続することを決めた。

17年度事業予算
5800万円規模



これらに先立ち、3月16日には17年度第2回通常理事会を開催。18年度の予算案や事業計画を審議した。事業予算は17年度をやや上回る約5800万円規模となり、各種事業については例年並みの内容で継続することを決めた。

◇ 17年度各事業の内容は以下の別稿参照。
北九州市小倉北区のホテルであった定時評議員会

◆海外難民救援事業——25団体へ◆

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979（昭和54）年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2017年で39年目を迎えた。今回は、「東南アジアの零細金採掘」をテーマに、7月下旬から9月上旬にかけて、大阪本社の記者とカメラマンがフィリピン、カンボジアで零細小規模金採掘現場で働く子どもたちの窮状を取材し「輝き探す闇」と題して連載した。その姿を知った読者から浄財が寄せられ、西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ペシヤワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど25団体に総額810万円を届けた。当初からの救援金の総額は16億2273万8344円になった。海外救援金の配分先は以下の通り。

日本ユニセフ協会▽NHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽国境なき医師団▽AMDA▽シェア（国際保健協力市民の会）▽JEN▽シャンティ国際ボランティア会▽AAR（難民を助ける会）▽JVC（日本国際ボランティアセンター）▽ピースウィンズ・ジャパン▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽シエラレオネフレンズ▽ネパール・ヨードを支える会▽NGOパル地震ブリム実行委員会▽アジア協会・アジア友の会▽リグラス・ジャパソ▽日本ILO協議会Ban Toxics▽EDAYA▽チャイルド・ファンド・ジャパン▽ペシヤワール会▽ロシナンテス 計 25団体810万円

◆小児がん征圧事業——31団体に◆

東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した＝写真。当年度は、全国で31団体に、1490万円を配分。第1次から第22次までの贈呈総額は3億2880万円となった。募金の配分団体は以下の通り。



がんの子供を守る会（含むスマートムンストーン）▽難病のこども支援全国ネットワーク▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽白血病研究基金を育てる会▽そらぶちキッズキャンプ▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リワーグ▽ゴールドリボン・ネットワーク▽チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニクラウン協会▽近畿小児血液・がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽あいち骨髄バンクを支援する会▽守口ぶどうのいえ▽こどものホスピスプロジェクトTSURUMIこどもホスピス▽Japan Hair Donation & Charity▽しぶたね▽ぷくぷくばーん【西部管内】NPO法人にこすま九州▽レモネードスタンドinふくおか実行委員会▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽九州大学小児医療センター親の会「すまいる」▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽九州がんセンター「心の結」▽たんぼぼハウス（熊本）▽宮崎ファミリーハウス▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会 計31団体1490万円